

福岡大学筑紫病院 脳神経外科後期プログラム

総合的な脳神経外科治療(脳血管障害・脳腫瘍・外傷・脊椎脊髄疾患等)を行っており、幅広い分野の臨床に従事できる。

特に脳血管内手術の症例は多く、脳動脈瘤に対する動脈瘤塞栓術をはじめ、脳虚血性疾患に対する頸動脈ステント治療などを施行している。脳動脈瘤クリッピング術やバイパス手術など従来からある脳神経外科手術の他、急性期脳梗塞に対する治療(rt-PA 静注による血栓溶解療法、MERCリトリーバーを用いた脳血管内手術)などを併せた総合的な治療を行っている。日々研鑽を積み、さらなる治療成績の向上に努めている。

認定施設

日本脳神経外科学会認定施設

日本脳神経血管内治療学会認定施設

日本脳卒中学会認定施設

指導スタッフ

日本脳神経外科学会専門医:5名

日本脳神経血管内治療学会指導医:2名

日本脳神経血管内治療学会専門医:2名

日本脳卒中学会専門医:4名

手術症例数

年間手術件数(平成22年):435件

開頭手術:149件(脳動脈瘤クリッピング術53件など)

血管内手術:151件(脳動脈瘤塞栓術93件、経皮的頸動脈ステント留置術41件など)

その他:135件

年間血管撮影件数(平成22年):575件

研修プログラム

脳神経外科全般のトレーニングに加えて、脳血管障害の内科および外科治療に習熟した専門医を育成することを研修目的とする。

習得資格は、日本脳神経外科学会専門医、脳神経血管内治療学会専門医、日本脳卒中学会専門医が主なものである。

卒後3年次(入局1年目)

指導医のもとで脳神経外科入院患者の副主治医として診療を担当する。

年間約200例以上の急性期脳卒中患者を受け持ち、150件の脳血管撮影を施行する。脳神経外科手術80件および、脳神経血管内治療30件の助手を務める。メジャー手術では開頭や閉頭を行い、マイナー手術では術者を経験する。顕微鏡下の手術トレーニングは微小血管吻合術で開始する。3年次と4年次の2年間で血管吻合術をマスターする。

卒後4年次(入局2年目)

年間約200例の入院患者を病棟医長の監督のもと、主治医を務める。3年次と同様に脳血管撮影150件を目標に施行する。また開頭脳動脈瘤クリッピング術や脳腫瘍摘出術などのメジャー手術の術者を経験する。脳血管内治療の術者を約30例経験する。

卒後5-6年次(入局3-4年目)

筑紫病院と関連病院を交互に勤務し、脳神経外科疾患全般における主治医、術者を経験する。また多くの学会や研究会に出席し、脳神経外科全般の知識を習得する。

卒後7年次(入局5年目)

前半は脳神経外科学会専門医試験を受験する。

後半は脳神経血管内治療学会専門医試験を受験する。その後、8年次前半の脳卒中学会専門医を受験する。

以上、卒後7年次(入局5年目)には上記の三つの専門医の受験資格を得ることを目標にトレーニングを行う。

この時点で市中病院に一人で就職しても専門医として多くのことを一人で処理し、研修医の指導医になれる臨床能力を習得している。

8年次以降

専門医取得直後は実践でのトレーニングの最終段階ですべての手術の術者を経験する。およそ1000例の入院患者を受け持ち、300件の脳外科治療と150件の脳血管内治療を術者として経験し、プログラムは終了である。

上記の時点で、専門職のトレーニングを開始する。

1. 脳神経血管内治療の指導医取得コース
2. 他の専門資格取得コース(神経内視鏡認定医、脊髄外科専門医など)
3. 一般臨床コース(筑紫病院や関連病院に勤務し、後輩の指導にあたる。)

* 大学院: 希望があれば、入局2年目より福岡大学医学部病態機能系脳神経機能学(風川教授担当)に進学可能。

連絡先(医局長 江藤 輔聖、松本 佳久)

Tel:092-921-1011